

兵庫県還暦軟式野球連盟

落雷事故防止ガイドライン

スポーツ中の落雷事故は一定の頻度で発生しています。落雷そのものを防ぐことは出来ませんが、適切な対応をとることで落雷事故は防ぐことが可能です。

安全を最優先に考え、落雷の予兆を感じた際には本ガイドラインにより、適切な行動をとるようお願い致します。

1 事前の気象情報の確認及び対応

(1) 練習や試合前に天気予報や雷予報アプリ(※雷ナウキャスト)を活用し、天候を確認する。

(2) 雷注意報が発表され、活動予定地から半径 20 km 圏内に雷ナウキャストによる活動度 2 以上の雷活動がある場合は、落雷の可能性が高いと判断されるため、活動を中止する。

※雷ナウキャストについて

- ・気象庁が提供している雷活動の予測情報サービスで、雷の活動状況を活動度 1 ～ 4 の 4 段階で示す。

雷活動度	雷の状況	
4 (紫色)	激しい雷	落雷が多数発生している。
3 (赤色)	やや激しい雷	落雷がある。
2 (オレンジ色)	雷あり	雷光が見えたり雷鳴が聞こえる。 落雷の可能性が高くなっている。
1 (黄色)	雷可能性あり	現在は雷は発生していないが、 今後落雷の可能性がある。

2 活動中に雷の兆候が見られた場合の対応

(1) 雷注意報が発表され、現在地から半径 20 km 圏内に雷ナウキャストによる活動度 2 以上の雷活動がある場合は、落雷の可能性が高いと判断されるため、活動を中断し安全な場所へ避難する。避難に時間がかかる場合は、活動度 1 の段階から早めの対応を心掛ける。

(2) 目視・音による雷の兆候

- ①積乱雲（入道雲・モコモコとした雲）が発生し、みるみるうちに大きくなる。
- ②黒い雲が近づき周囲が暗くなる。
- ③急に冷たい風が吹いてくる。
- ④雷光（稲光）が見え、雷鳴が聞こえる。

※：①の兆候が確認された場合は、雷ナウキャスト等の気象情報を確認する。

※：②～④の兆候が確認された場合は、直ちに活動を中断し、安全な場所に避難をする。

3 避難場所について

(1)安全な避難場所

- ①自動車等の乗り物の内部
- ②鉄筋コンクリート造・鉄骨造の建物の内部
- ③本格的な木造建物の内部

(2)危険な避難場所

- ①屋根と柱だけで壁のない建物(避雷設備のないあずま屋等)
- ②テント、屋根付きベンチ
- ③樹木

4 屋外で安全な避難場所がない場合

(1)屋外で安全な避難場所がない場合は、一時的に下記の場所に避難し、車両等で速やかに迎えに来てもらう。

- ①コンクリート電柱や鉄塔等の高さ5m以上の構造物から4m以上離れ、低い姿勢を保つ。
- ②電線の真下に入る。

5 活動再開の判断基準

(1)下記の2つの条件を両方とも満たすまでは活動の再開はしない。

①雷ナウキャストで現在地から半径20km圏内に活動度2以上の雷活動がないことが確認される。

②雷鳴または雷光が最後に確認されてから30分以上経過している。

6 雷に打たれた場合の対応

(1)雷に打たれた場合、「心肺停止」「やけど」「鼓膜が破れる」「意識障害」などの症状が想定される。この場合、直ちに救急車を呼び、落雷被害者を安全な場所へ移し、「心肺停止」の場合は、救急車が到着するまでの間、心肺蘇生法とAED等により応急処置を行う。

「やけど」の場合は、患部に冷水・水道水を注いで痛みが取れるまで冷やす等の応急処置を行う。

7 活動の中断及び再開の判断

(1)リーグ戦実施中に対応すべき雷の兆候が見られた場合は、担当審判員と両チーム監督の協議により直ちに試合を中断し、上記5の再開判断基準を満たすまでは再開しないこと。

(2)練習及び練習試合の場合は、チーム責任者が基準に基づき判断すること。

令和7年8月29日
兵庫県還暦軟式野球連盟
理事長 安田 昭人
審判長 金田 光倫